

平成 30 年度 京都市域地域医療構想調整会議（B ブロック会議）

の開催概要（第 3 回）（平成 31 年 2 月 25 日）の審議内容

開催日時

平成 31 年 2 月 25 日（月曜日） 14 時から 16 時まで

開催場所

京都府医師会館

出席委員

出席者名簿のとおり（35 名）

審議の概要

報告事項

（1）「地域における各病院の役割について」発表

- ・資料 1 により、各病院から発表

<主な発言>

- ・精神疾患の中には、外来の短期治療で改善するケースがある。
- ・高齢者の場合、睡眠をしっかりとることで抗精神薬を飲まなくても良い場合も多い。
- ・救急については、地域の各病院の役割を救急隊も承知している。機能分化が地域の医療を効率的にしていこうと考えている。
- ・人工呼吸器が必要な患者の受け入れ（転院）時期について、相談したい。

（2）「各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること」発表

- ・資料 2 により、各団体から発表

<主な発言>

- ・患者 QOL の向上のために、訪問歯科の増加をしていきたい。
- ・口腔ケアは特に、終末期にあれば良いと認識している。歯科部門がない病院で病院への訪問歯科を実施しているか。
→長期入院（慢性期）では、問題がなければ診ないケースが多い。

(3) 病床機能区分検討ワーキングの報告

- ・資料（別紙）により府担当より報告

<主な発言>

- ・各病院の患者重症度が月によって大きく変化する場合、病床機能をどのように評価するのか。
→例えば、通年での判断も可としている。
- ・一般基本入院料の重症度を根拠としているが、大きく変わる場合はどうするのか。
→実態に合わない状況になれば、随時見直すこととしている。
- ・難病病棟等の特殊病棟については、しきい値に関わる病棟数に数えるのか。
→数える。（一般のみの算定ではない）
- ・示された結果では、慢性期病床数が6千床程度しかないが、減らすということか。
→今回分析可能であった病床数が6千ということであり、減らすことはない。
- ・今回提示された方式は、次回の病床機能報告の提出の際に用いるということによいか。
→参考にさせていただければと考えている。
- ・緩和ケア病棟の取り扱いについて、放射線治療の有無で区分が変わるとするのはいかがかと思う。

(4) 連絡事項

- ・今年度のブロック意見交換会は今回が最終回となり、3月に京都市域全体会議にてとりまとめ、報告させていただく。
- ・来年度以降も本会議は開催するので、今後とも御協力いただきたい。